※令和3年度以前入学生用

学校番号	1003

令和　5　年度　　公　民　　科

教科	公民	科目	倫理	単位数	2　単位	年次	3　年次
使用教科書	高等学校　新倫理　新訂版（清水書院）						
副教材等	テオーリア　最新倫理資料集　新版三訂（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書と副読本（資料集）を用いて講義形式で授業を進める。大学入学共通テストの受験科目である。文系国公立進学希望者は「政治経済」も合わせて履修することが望ましい。選択科目であるので、進路との関係にも十分留意すること。予習として教科書を読んでおくとともに、復習としてノートの整理をおこなうこと。

2　学習の到達目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成や人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付ける。
評価方法	・授業への取り組み ・提出物 ・出席状況 ・定期考査	・授業への取り組み ・提出物 ・定期考査	・授業への取り組み ・提出物	・授業への取り組み ・提出物 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	第1編 現代に生きる自己の課題	第1章　人間とは何か 第2章　青年期の課題と自己形成		○		○	a:青年期を現在の自分のこととして、関心をもち、その課題に取り組もうとする意欲を持っている b:発達心理学上の成果などから、青年期の課題を自分のこととして考え、その解決に向けて模索している。 c:複数の心理学者の提示する発達課題を比較・検討しそこから個人の課題をまとめることができる。 d:青年心理学や発達心理学上の知見について理解し正確な知識をもっている。	・授業への取り組み ・提出物 ・定期考査
1	第2編 人間としての自覚と生き方	第1章　人生における哲学 第2章　人生における宗教 第3章　人生の知恵 第4章　人生における芸術	○			○	a:人間としての在り方生き方について、代表的な先哲の思想家から学ぼうとする意欲を持っている。 b:ギリシャ思想、キリスト教、仏教、儒教などの代表的な先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。 c:複数の思想家の提示する思想を比較・検討しそこから人間としての在り方生き方をまとめることができる。 d:先哲の思想家の教えや生き方を理解し正確な知識をもっている。	・授業への取り組み ・提出物 ・定期考査
2	第3編 現代社会と倫理	第1章　現代の倫理的課題 第2章　現代に生きる人間の倫理				○	a:人間としての在り方生き方について、代表的な先哲の思想家から学ぼうとする意欲を持っている。 b:西洋の代表的な先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。 c:複数の思想家の提示する思想を比較・検討しそこから人間としての在り方生き方をまとめることができる。 d:先哲の思想家の教えや生き方を理解し正確な知識をもっている。	・授業への取り組み ・提出物 ・定期考査
2	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚	第1章　日本の風土と外来思想の受容 第2章　現代の日本と日本人としての自覚				○	a:日本の思想家から日本人の生き方を学ぼうとする意欲を持っている。 b:日本の代表的な先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして広い視野に立って主体的かつ公正に判断できる。 c:複数の思想家の提示する思想を比較・検討しそこから人間としての在り方生き方をまとめることができる。 d:先哲の思想家の教えや生き方を理解し正確な知識をもっている。	・授業への取り組み ・提出物 ・定期考査
3	第5編 現代の諸課題と倫理	第1章　生命と倫理 第2章　環境と倫理 第3章　現代の家族とその課題 第4章　地域社会の変容と共生 第5章　情報社会とその課題 第6章　グローバル化の時代と倫理 第7章　人類の福祉と国際平和			○		a:現代の諸事象について、倫理的視点から主体的に課題を見出そうとする意欲をもっている。 b:現代の諸事象を考察したうえで、自己自身の生き方や考え方、国際社会の在り方について考え、広い視野に立って適切な判断を行うことができる。 c:現代の諸事象についての諸資料や種々の情報を収集し、それに基づいて自ら考え、判断し、自己の行動の指針をまとめることができる。 d:現代の諸事象について理解し、適切な判断や実践的な認識をもっている。	・授業への取り組み ・提出物 ・定期考査

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画(例)作成上の留意点
・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○をつけている。